

お互いの個性を認め合い 気持ちにも共感し 寄りそい合う

第3回邑楽町いじめ防止子ども会議に参加した児童生徒が導き出した『宣言』です。いじめに向き合う子どもたちを会議開催の背景とともに紹介します。大人も一緒に考えてみましょう。

毎年続けて3回目 テーマを新たに 子どもたちで

平成25年度から始まった「邑楽町いじめ防止子ども会議」。毎年1月に開催し、町内6小中学校の代表児童生徒が参加。保護者や先生、地域関係者とともに、いじめをなくすための話し合い

や活動を行ってきました。

27年度は「学校や先生、家庭や地域に対して子どもたちから発信しよう」をテーマに、いじめの現状について自分の考えを子どもたちだけで話し合いました。

会議は、子どもたちが2つのグループに分かれて協議を開始。中学生が司会や記録を担当して進め、今まで各校が取り組

んだ活動や成果、課題を順番に発表しました。1班で司会を務めた邑楽中学校の大谷翼さんは「緊張しました。でも、みんなの意見をしっかりとめなげや、と思って会議を進めました」と話しました。いじめの現状を報告したり、解決策について意見を交わしたりした後、全員で今後の取り組みを話し合いました。

いじめの現状に見る 傾向と対策のキーワード 『連携』『発信』

文部科学省では、いじめの定義を「一定の人間関係にある児童生徒から心理的、物理的な行為を受けた児童生徒が身体的、精神的な苦痛を感じている状態」としています。つまり、受け手が言われて嫌な思いをした、やざされて苦しかったと苦痛に感じれば、それは『いじめ』だということです。

町では「邑楽町いじめ防止基本方針（平成27年9月）」の中で、いじめは人権侵害だという認識

のもとに「いじめを絶対に許さない学校をつくらう」と、いじめの未然防止、いじめの早期発見・早期解決の対策に取り組んでいます。

しかし、いじめはどの学校でもどのクラスでも、どの子どもにも起こり得るといわれています。これを示すデータが左の国の調査結果です。図1のグラフを見ると、仲間はずれ・無視・陰口について、9割近くの児童生徒が被害・加害ともに経験していることが分かります。

さらに、いじめの内容もさまざまですが、図2の表を見ると、からかう、悪口や脅しが小学

生で63.4%、中学生で67.6%。集団による無視などの仲間はずれが小学生で20.8%、中学生で16.1%になっています。

このことについて、町教育委員会の松澤修指導主事は「仲間はずれ・無視・陰口などは暴力を伴わないいじめで、形として見えにくいのが特徴です。エスカレートする前に発見し、解決することが大切になります。そのため、学校・家庭・地域・関係機関が連携を取り合い、町全体が一体となって取り組むことが重要」と話しています。

今回の会議のテーマを「学校や先生、家庭や地域に対して子

どもたちから発信しよう」としたのは、いじめの現状を町民の皆さんに理解してもらうとともに、その解決に向けて一緒に取り組んでいきたいという考えからだった、とも話していました。

あらゆる場所に 聞き入れる窓口を

いじめに関する相談窓口は、子どもたちが通う学校以外にも町教育相談室、町教育委員会、県総合教育センター子ども教育相談室などがあります。相談窓口では、被害者の気持ちに寄り添い、その気持ちを大切にしながら解決方法を一緒に考えます。状況によっては、関係機関とも連携して取り組みます。その場合でも相談者の思いは尊重されるので、安心して相談してください。

子どもたちが 自分たちの問題と捉え、 自らの行動で解決へ

かつては先生から働きかけることが多かった取り組みも、今では子どもたちが主体の取り組みが増えてきています。小学校では児童会、中学校では生徒会の本部役員が中心となって、あいさつ運動やいじめ防止の劇をして全児童生徒へ啓発活動をしています。そのため、

いじめ問題の相談窓口

<p>【学校】</p> <p>中野小学校 ☎88-5501</p> <p>高島小学校 ☎88-0644</p> <p>長柄小学校 ☎88-0649</p> <p>中野東小学校 ☎89-0888</p> <p>邑楽中学校 ☎88-0150</p> <p>邑楽南中学校 ☎88-2120</p>	<p>町教育相談室</p> <p>火～金曜日（祝日除く）</p> <p>午前9時～午後5時</p> <p>邑楽町公民館2階 ☎88-9779</p> <p>町教育委員会学校教育課</p> <p>月～金曜日（祝日除く）</p> <p>午前9時～午後5時</p> <p>町役場学校教育課 ☎47-5042</p>	<p>県総合教育センター 子ども教育相談室</p> <p>幼稚園や保育園、学校ことで不安や心配なことはありませんか。教育や子育てに関するあらゆる相談を受け付けます。</p> <p>月～金曜日 午前9時～午後5時</p> <p>第2・4土曜日 午前9時～午後3時（日曜・祝日除く）</p> <p>伊勢崎市今泉町 ☎0270-26-9200</p>
---	--	--

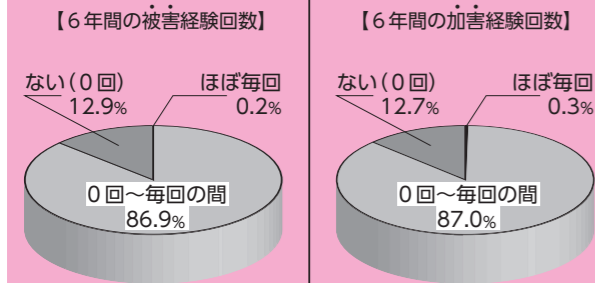
一人で悩まずに相談してください。秘密は固く守られます。

子どもたちの中にも「いじめをしない、させない、許さない」という意識が育ってきています。そして学校の先生は、授業や行事、休み時間などを通してよりよい人間関係づくりに取り組んでいます。日々の生活の中での人間関係づくりは、いじめの未然防止になります。

国立教育政策研究所・平成25年7月発表 「いじめ追跡調査2010-2012」より

■図1 ■ 仲間はずれ・無視・陰口をされた回数

平成19年度に小学4年生の子どもが中学3年生になる平成25年度までの6年間（1年間に2回ずつ）に渡って行った追跡調査



文部科学省・平成27年10月27日発表 「平成26年度 いじめに関する調査結果」より

■図2 ■ いじめの態様

内容(例)	構成比	
	小学生	中学生
冷やかしかやからかい、悪口や脅し文句など	63.4	67.6
仲間はずれ、集団による無視	20.8	16.1
軽くぶつかられたり、叩かれたり、蹴られる	24.4	18.4
ひどくぶつかられたり、叩かれたり、蹴られる	8.4	5.6
金品をたかられる	2.0	1.6
金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたりする	7.4	6.6
嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされる	8.2	6.8
パソコンや携帯電話で、誹謗中傷や嫌なことをされる	1.3	7.8
その他	4.8	3.4

注1・複数回答可
注2・構成比は、各区分における認知件数に対する割合



平成28年1月25日、役場会議室で行われた第3回邑楽町いじめ防止子ども会議の様子

いじめを起ささない学校づくり

いじめ根絶のために大切なことは、いじめそのものが起さない学校をつくること。会議では、そのために「何を、誰に、どのように」発信していくのかを話し合いました。会議後、各学校で次々と取り組みが進められています。ここでは邑楽南中学校の取り組みを紹介します。

できる取り組みを一つずつ

いじめ防止子ども会議に参加した生徒会長の久保田彩美さん（2年）は「とにかく一日でも早く、いじめ防止子ども会議で話し合ったことを学校みんなに伝えなくちゃ、と思って先生に相談しました」と話します。



2月4日の昼休み。生徒会本部役員が集まって「いじめ防止子ども会議で決まった」宣言をどうやって伝えるかを議題に会議を行いました。会議では「掲示をすれば、たくさん目の届く場所を通り過ぎちゃったら意味がない」「それなら、流行を取り入れ



生徒会長 久保田 彩美さん

たり、親しみのあるイラストを入れたらどうか」など、掲示して仲間にも知ってもらおうとする案や、「学校だけじゃなくて、家庭にも協力してもらいたいよね」「チラシやポスターをつくらせてみよう」など、家庭を巻き込んだ取り組みをねらう案がありました。

「とにかく一日でも早く」と考える生徒たちは、いくつもの取り組み案をスケジュール立てにして、継続的に取り組みを進めていくことを確認しました。

「いつの現場」を上演

2月17日の生徒集会。生徒会本部役員は劇を演じました。いじめの現場を想定し、3つのス



生徒会担当 柿沼 雅典先生

トリーで構成した劇でした。そこでは、上下関係に悩む生徒やSNSを使って陰口を言われる生徒、容姿を話題にしたいいじめを受ける生徒が登場し、それぞれの場面を見せた後で「こんなとき、あなたはどうすればいい？」と問いかけました。

劇を見ていた増尾佳大さん（2年）は「友達を苦しめるいじめはしてはいけない。実際にそこに居たら何をすればいいのか、考えさせられました。声をかけて止めてあげたい。そのためには勇気も必要」と感想を話しました。

定例の「あいさつ運動」

毎週火曜日の朝（8時から20分間）に行っているのが「あいさつ運動」。生徒会本部役員が昇降口の前に立ち、登校してくる生徒に元気にあいさつをします。

「笑顔であいさつをすると笑顔を返してくれます。あいさつを交わすことで、校内の明るい雰囲気づくりができると思っています」と久保田さんは話します。昇降口はあいさつの声で活気に



笑顔であいさつ。相手も笑顔を返してくれる

さらに、今後の取り組みについて聞くと「いじめをなくすためには、学校だけでなく家庭や地域社会が力を合わせた取り組みが必要です。学校では、生徒同士が互いを認め合い、思いやることのできる学級づくりを心掛けていきたい」と話しました。



生徒会本部役員の大国菜月さんが中心になって作った邑楽南中学校のオリジナル啓発ポスター。教室や廊下など、人の目に付く場所に貼っています

子どもたちから

発信

1月25日の「いじめ防止子ども会議」に参加した11人です。各校の代表として、子どもたちから声を発信します。

もっとたくさん遊んでほしい

「今日は何があった？」と聞いてほしい

家族で過ごす時間を増やしてほしい

学校の出来事を聞いてほしい

学校とつながっていてほしい（理解し合う）

家族へ...

先生へ...

いじめについての授業をしてほしい

いじめている子が二度といじめをしないようにいじめている子の話をよく聴いてあげてほしい

先生から話しかけてほしい子どもたちとの会話を増やしてほしい

「今日は楽しかった？」と声をかけてほしい

「相談してもいいよ」という雰囲気をくつしてほしい

「最近どう」と声をかけ、子どもの様子を知ってほしい

地域へ...

地域で楽しい行事をたくさんやってほしい

声をかけてほしい

見守ってほしい

いけないことは注意してほしい

地域のかたにあいさつされるとうれしい

中野東小学校6年 帆足 碧夏さん

中野東小学校6年 半田 電聖さん

高島小学校6年 田中 乃杏さん



邑楽中学校1年 新井 涼真さん



邑楽中学校2年 大谷 賢さん



邑楽南中学校3年 石川 葵さん



邑楽南中学校2年 久保田 彩美さん

長柄小学校6年 阿部 咲人さん

長柄小学校6年 木暮 亮太さん

中野小学校6年 小貫 史織さん

中野小学校6年 鈴木 心人さん

思えば一つ「いじめをなくしたい」

町教育委員会の竹澤政何指導主事は会議のまとめで、「今回の会議は一つのステップ。町内小中学生2、162人が誰一人としていじめでつらい思いをすることがないよう、今回話し合ったことを今後の生活に生かすことが大切」と話しました。

私たちは、お互いの個性を認め合い、気持ちにも共感し、寄りそいます!!

第3回邑楽町いじめ防止子ども会議 宣言

会議に参加した児童生徒は、それぞれの学校に戻り、学校全体での取り組みにするために仲間と知恵を出し合い、協力して頑張っています。子どもたちは「いじめをなくしたい」という思いを、発信し、行動をしています。大人にもできることがあるかもしれません。...何から始めますか...